【102】

氏　　名	二　木　　隆（ふたき　たかし）
学位の種類	医　学　博　士
学位記番号	論 医 博 第 583 号
学位授与の日付	昭和 50 年 1 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当
学位論文題目	**The Furosemid Test for Meniere's disease** （メニエール病に対するフロセマイド試験）
論文調査委員	（主査）教授 半田　肇　教授 大橋博司　教授 森本正紀

論文内容の要旨

メニエール病は回転性眩暈発作，耳鳴，難聴を主症状として診断されるが，原因既知の迷路性疾患や，非迷路性の眩暈症とは明確に鑑別診断されねばならない。又メニエール病に対して，内リンパ減荷術や，利尿剤及びステロイド剤で治療を行うに際しても，その主要病態である内リンパ水腫の検索を確固ならしめる診断が求められる。

今度，利尿剤フロセマイドの静脈内投与による脱水試験によって，内リンパ水腫の存在を明白に推定しうる「フロセマイド試験」を開発し，161 例のメニエール病を中心とした迷路性眩暈症例における結果を得た。

対　象：定型的メニエール病　93例，不全型メニエール病　34例，迷路梅毒　12例，突発性難聴11例及び迷路炎11例　計 161 例。

コントロールとして健康者23名。

方　法：純音聴力検査，温度試験及び耳鳴，頭痛等の自覚症のチエック后に20mg のフロセマイドを静注1時間の脱水后，再検査す。

聴力では250，500，1000Hz の低音部での変動をパラメターとした。

温度試験では眼振緩徐相最大速度の比較を DC-ENG 波形より計算し，コントロールと比較して90％許容限界の上限を＋9.4％として，これ以上の反応増加を陽性とした。

結　果：

定型的メニエール病		80％（陽性率）
不全型	〃	6〃
迷路梅毒	〃	42〃
突発性難聴	〃	27〃
迷路炎	〃	0〃

考　察：上記成績に文献学的考察ならびに，手術例や保存的治療例の結果を併せて勘案し，メニエール病

の本態である内リンパ水腫の検索におけるフロセマイド試験の有用性を強調すると共に，梅毒性水腫や突発難聴型水腫の存在に関して言及した。

論文審査の結果の要旨

メニエール病の病態が内リンパ水腫である事は今日定説であるが，診断的見地よりその病態を明らかにする方法は少ない。眩暈を主訴とする数多の疾患の中より定型的メニエール病を鑑別して治療方針を確定するに当り現在も症候学的になされているに過ぎない。眩暈発作，難聴，耳鳴の3徴候を示しても，内リンパ水腫そのものに対するアプローチがなければ，確定診断を得る事にはならない。著者は利尿剤フロセマイドを用いて内リンパ水腫の検出に成功した。即ち，フロセマイド20 mgの静注前后の純音聴力，温度反応及び耳鳴の消長を検討し，特に1時間の脱水后に迷路の温度反応増強（9.4％以上有意水準）を以て内リンパ水腫の一過性軽減の証しとした。本論文は161名の耳性眩暈患者（定型的メ病93名）と健常対称23名にフロセマイド試験を行つた結果を収録し，特に定型的メ病では80％の陽性率が得られた事を報告すると共に，迷路梅毒，突発難聴にも内リンパ水腫例の含まれる事を示唆した。

以上の如く，本論文は内リンパ水腫の検出法を創案し，鑑別診断と治療の確立に寄与するところが大であり，医学博士の学位論文として価値あるものと認める。